

## 自由集会 1

### 学会法人化に関する意見交換会：日本霊長類学会の実情に即して

日時：2018年7月13日（金） 13:00－14:30

場所：3号館1階3125教室

学会を法人化することに関する意見交換会を、本大会の総会に先立ち、自由集会の機会を借りて行います。もし日本霊長類学会が法人化されると、どういう良いことがあるのか、法人化にかかる負担はどのようなものか、法人化後の負担はどのようなものか、学会の組織運営は大きく変わるのか、実現までのロードマップはどのようなものか、といったことを日本進化学会の法人化を例に、直接関わった経験を持つ理事の河村から説明します。その後はフリーディスカッションと致します。

議論の効率化のために、Q&Aを用意したいと思います。本集会の1週間前である7月6日（金）までに、河村の下記電子メールアドレスに Question をお寄せください。

主催：日本霊長類学会理事会

責任者：河村正二（東京大・新領域）

連絡先：kawamura@edu.k.u-tokyo.ac.jp

## 自由集会 2

### AI 技術は霊長類との関わり方を変えるのか

日時：2018年7月13日（金） 13:00–16:10

場所：3号館2階3225教室

技術は霊長類学を大きく発展させてきた。個体識別の技術は、サルの行動が血縁や年齢や社会的地位によって異なることを明らかにし、動物研究において欠かせないものとなった。Altmann (1974) に代表されるサンプリング法は、職人技的な観察力を持たなくても誰もが公平なデータを収集できることを担保した。推測統計の進歩は、観察者の「歪んだ」印象を修正したり、観察者が主観的には知覚できなかった要因の影響を検出する役割を果たすこともあった。霊長類学の歴史は、サルの理解が進んだ歴史だけでなく、霊長類研究者がサルに向ける態度やまなざしが変化した歴史でもあったのだろう。

本集会の目的は3点ある。1つ目は、私たちが取り組んでいるAI技術を用いた研究の紹介である。私たちは、この技術を利用して個体識別と集団の発見と行動観察をおこなう計画を進めている。2つ目は、人間である霊長類研究者がもつ個体識別能力の特徴を検討することである。霊長類研究者を対象とした認知心理学的実験に基づいて、AIと人間の類似点や相違点について検討する。最後は、AI技術の導入によって将来生じうる私たち霊長類研究者の変容可能性について議論をおこなうことである。技術が霊長類研究者の能力を拡張するだけでなく、霊長類研究者を変容させる可能性にも注目することで、霊長類を観察することの新しい意義や楽しさについて議論を深めたい。

#### プログラム

1. 趣旨説明：AI技術は霊長類との関わり方を変えるのか  
山田一憲（大阪大学 人間科学部）
2. 深層学習とパーティクルフィルタを用いた動物種追跡  
林 英誉（岐阜大学大学院 自然科学技術研究科）
3. 深層学習を用いたニホンザルの個体識別  
加畑 亮輔（岐阜大学大学院 自然科学技術研究科）
4. 人間の霊長類研究者が用いる顔の情報処理戦略  
上野将敬（大阪大学 人間科学部）
5. 霊長類研究者の変容可能性  
久保明教（一橋大学 社会学部）
6. フロアを交えた議論

責任者：山田一憲，上野将敬

### 自由集会 3

## 和歌山タイワンザル「群れ根絶の報告」と千葉アカゲザル問題「現状と課題」

日時：2018年7月13日（金） 14:40－17:50

場所：8号館6階8603教室

日本で特定外来生物に指定されているタイワンザル、アカゲザルが野生化し、ニホンザルへの交雑等が問題になっている。

2004年に青森県下北半島のタイワンザルの全頭捕獲が達成されたのに続いて、2017年12月、和歌山県北部で野生化していたタイワンザルの群れの根絶達成が、5年間の残存個体有無のモニタリングを経て、和歌山県知事によって公表された。366頭目である最後の交雑個体が捕獲、除去された2012年4月30日に根絶が達成されていたことになる。自由集会では群れ根絶の報告とともに、経過をふりかえり学んだことを整理する。

一方、千葉アカゲザル問題は対策が進められているものの、さらなる課題がある。房総半島南部に野生化しているアカゲザル個体群では、2000頭を超える捕獲、除去が進んでいるものの、半島中央部の房総半島ニホンザル地域個体群に交雑が波及し、ニホンザルのメスが交雑個体を出産しているという緊急事態になっている。そこには国の天然記念物「高岩山サル生息地」もあり、ニホンザル、ひいては房総半島の生物多様性保全のための今後の課題を整理する。

以上、行政を含む和歌山タイワンザル関係者、千葉アカゲザル関係者から報告し、会員のみなさまと議論する予定である。

責任者：白井啓，川本芳，森光由樹（保全福祉委員会）

## 自由集会 4

### 細胞からみた霊長類：「ヒト生物学」に向けて細胞研究は何ができるのか？

日時：2018年7月13日（金） 16:20－17:50

場所：1号館4階1405教室

iPS細胞などの幹細胞に代表される細胞研究分野では、新たな現象・メカニズムや革新的技術が日々発見・報告されている。こうした研究の成果は基礎研究の枠に留まらず、発生・生殖工学や医学・創薬・畜産などに順次応用されつつある。長らく生命科学はマウスを中心に展開されてきたが、細胞研究の発展に伴い、「細胞レベル」で様々な哺乳動物種を取り扱うことが可能となってきた。これは霊長類も例外ではなく、これまで霊長類と縁のなかった研究分野の研究者が、霊長類を対象とした研究に新規参入するケースが急激に増加している。そこで、本自由集会では細胞研究者が霊長類をどのようにみており、そして何ができるのかについて、各専門の立場から発表を行い、霊長類研究の今後の展開と可能性について議論したいと考えている。

#### 話題提供

- ・ 一柳健司（名大・農）
- ・ 今村拓也（九大・医）
- ・ 小林俊寛（生理学研究所）
- ・ 鈴木俊介（信大・農）

責任者：今村公紀，古賀章彦（京都大学霊長類研究所）